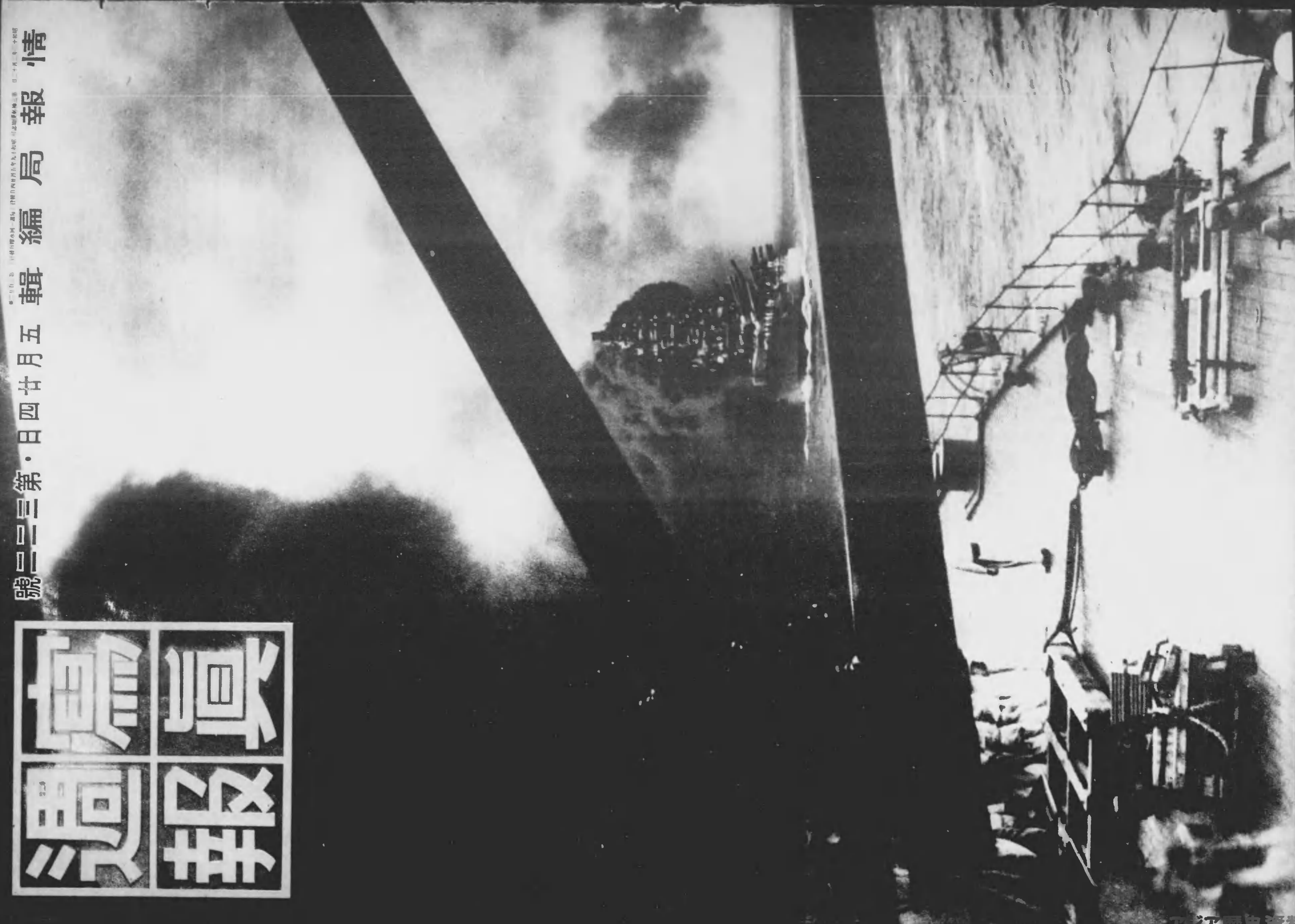


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號三三三第・日四廿月五輯編局報情

眞實週報



戦艦の歴史を継ぐ

指揮官先頭に全速で敵に襲り込む水雷艦隊



第三十九回海軍記念日を迎えて

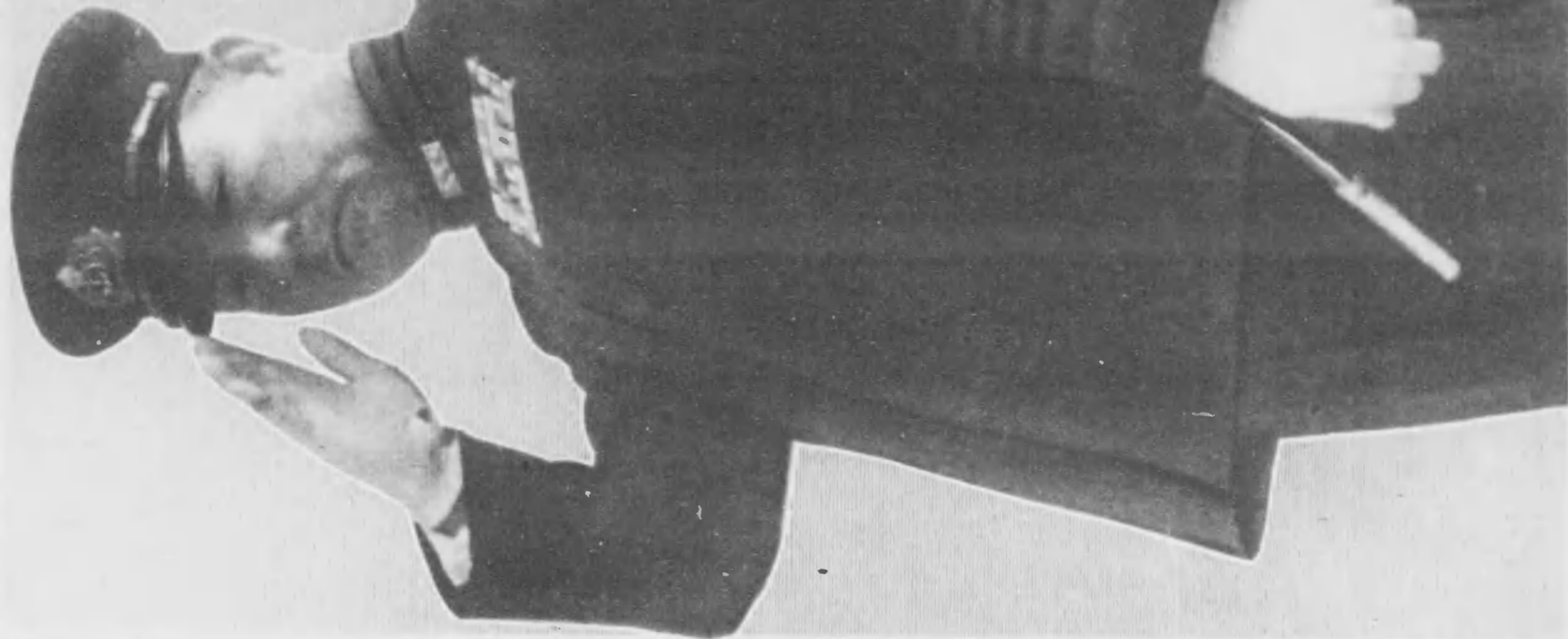
Z艦三笠の艦頭に語る

この決戦必勝の信念が掲げられたのは、

丁度

今から三十九年前の五月二十七日午後一時五十五分だった

当時、たゞく、極東制覇の野望に燃えるロシアの侵略に對して、帝國の『獨立自衛』を確保すべく、わが國は、既に上下二攻、三國干渉以来、新舊二十年の激戦心と海軍の発展をなやまして、その貧弱飽くなき野望を



山本聯合艦隊司令長官

徹底的に粉砕撃沈したのである。ロシアの敗因はその戦争目的の不明確なために、わが國が、これ以上の戦争継続力を不可能視された時期であつたにも拘らず、遂に國內分裂の結果、敗退せざるを得なかつた。正に、勝敗は紙一重であり、最後の五分間を頑張り、戦ひ続けるものに対してのみ、勝利の榮冠は輝く。そして戦争は結局、國民の火の如き必勝の信念と、如何なる困苦缺乏にも耐へる強固なる意志とに加へて、遂に、渾然一體化した國民の熱意とによつてのみ、勝利を獲得することができるとを不滅の歴史的事實として歌へてゐるのである。われ／＼はこの點を先づバツキリと知らねばならない

『ロシア海軍の名譽を擁護せよ』と皇帝ニコライ二世の信託と全國民の熱望とを發つて、リギリ軍港を出航した東征バルチック艦隊は、艦程、既に一万五千哩の長途を、離散をただこの一戦に賭け、鐵血一擧の勢ひを以てアフリカの南端、喜望峯を大迂回して來攻したのであるが、東郷大將麾下のわが聯合艦隊はこれを朝鮮海峡に邀撃して、一舉にこれを撃滅し、遂に、蒙古の大勝を博して日露戦争の大勳を決定したのである。日本海海戦は、二十七日暁から始つて二十九日朝まで戦ひつゝ、勝敗の數は、鐵血三笠が砲撃を開始

してから僅々三十五分間で決定してゐる。だが、今度の戦争は、ハワイ、マニラ沖海戦以來今日まで、二十回に近い海戦が行はれたが、未だに大局を決定するに至らない。それは何故か？

それは全く航空機の出現でありその長足の進歩に外ならぬ

精銳で陸軍を喫したアメリカは、帝國海軍によつて、はじめて示された航空機の偉大さに目を醒すや、軍需工業の全面的進歩を行つて航空力の飛躍的増強を圖り、現在太平洋全域に亘つてその大航空兵力を展開して、戦局の大勢を制せんと企圖してゐるのである

太平洋戦局は、去る二月上旬の皇土内南洋への捷寇

によつて、米英の東亞再侵略の開始といふ劇的段階へと突入するに至つた。二十一年八月以來、敵の反攻は、今日まで、すでに十年十ヶ月の長きに及んでゐるが、敵の航空力は、些かも衰へを見せず、今や太平洋の全周からわ／＼心算部あがけて、決定的打撃を加へんとしてゐる。戦局の現状が、如何に、異常激烈であるかは、太平洋全戦線への敵艦の集結が

二月の二万二千四百四艘、三月の二万八千三百二十九艘、四月の二万四千九十七艘なる事實が端的にこれを實證してゐるが、それにもましてその深刻さを、象徴するものは、この一年間に、聯合艦隊司令長官である山本、古賀兩元帥が、壯烈なる戦士戦死をなされた敵艦なる事實でなければならぬ

現在の太平洋戦局は、これを大局的にみれば、わが本土爆撃、わが生命線ともいふべき南方資源地帯の奪回及び本土と南方地域との海上補給路遮断の三點を總つて、日米の一大攻防戦が展開してゐるのであるが、さらにこれを仔細に検討すれば

- 一、大海上機動戦の展開
- 二、艦隊爆撃の強化——鐵血の戦ひ
- 三、空母勢力の重視——對日攻撃の一番槍は空母の甲板から
- 四、敵の迂回戦法——わが弱點突破——基地攻撃力戦
- 五、科學戰術の相戦——日米科學技術決戦

などによつて特徴づけられるであらう

マニラ海戦までは約二ヶ月、ペラオ半島までは一ヶ月餘、更に、トララク半島までは一ヶ月、敵はその間、間斷なき連綿爆撃を實施した後、新作戰を展開してゐる

從來の戦國經過からみて、敵現在の間斷なき砲撃は、機動部隊による次期作戰の準備行動と斷じてよからう

今日の如き國と國との競争り戦である総力戦では既に

前線、後線の區別はなく、一兵一卒が同じ重要さと資格とを持つ戦員であつて、誰一人として手をゆるめることを許さぬ。そして現代戦が大消耗戦であり、大補給戦、大生産戦、大科擧戦であることを性格とする以上、われ／＼は、これらの戦ひを同時に且つ全面的に勝ち抜かねばならぬ。これらを勝ち抜くとき、必勝の大道は、總然とわれ／＼の前に開かれるのであり、しかも必勝の戦機は、轉瞬にして推移するものであることを、この際、特に銘記すべきである

三十九年前の日本海海戦が、皇國の興廢を決定する一大決戦であつた如く、戦局の現状はそれ以上重大な難局に直面してゐる

我々は今こそ、大日本の精鋭高く調子として闘つてゐる名族の下、一億、相互信頼と協力とによる鐵石の團結を固成して總力を結集し發つて三十年來不敗の國體を永久に護持せねばならぬ

大本營海軍報道部

必殺、海鷲魂を二、に見る

昨年十二月五日、マニラ沖海空戦に敵機部隊を掃討攻撃し、中型空母、大規模洋艦各一隻を撃沈、大規模空母、艦洋艦各二隻撃沈、

ね、機雷といふ種く戦果の隆には、奪い未降機六機の犠牲があつたが、このほどスチスの雑誌(イコノグラフィック)によつて、機雷に傷つき

上つて、艦沈す前には魚雷を發射して自爆し、た海鷲の壮烈な最後が傳へられた。正に死して止まざる攻撃精神、これこそ無敵海鷲の真髓で

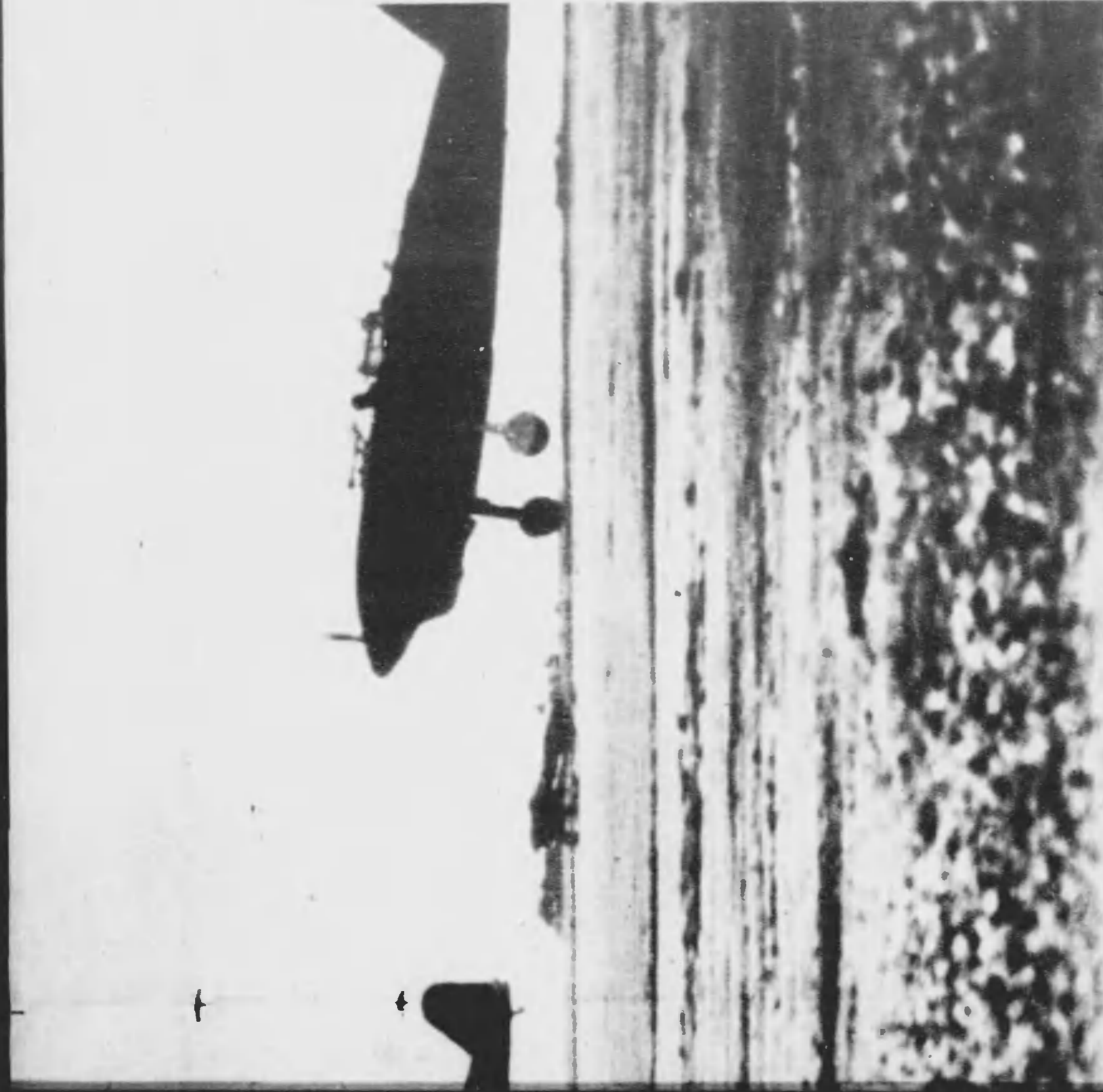
あらう

上 火の玉と化しつゝ敵艦めがけて突進する海鷲

下 同機雷轟撃後の海空戦 海軍省資料 中村 研一



研

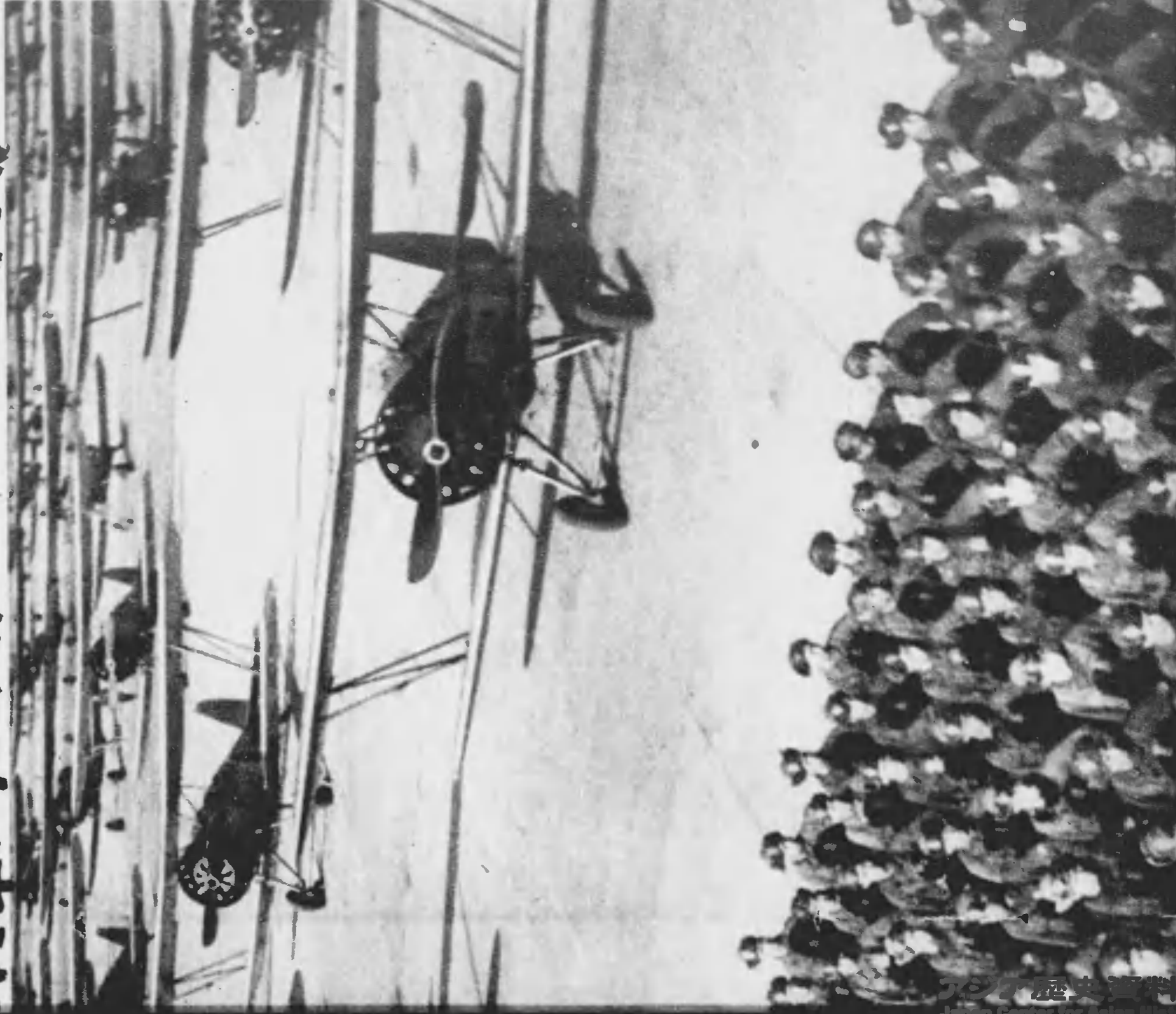


航空軍海國帝るぎ大は志闘



す決を軍航軍出は軍空つ春へ進そるけつつや機全にな か機百二か機百は機
 以軍道軍軍軍口機 影攝

くめらひに英四の機は字層の軍軍 い近は日るせ見物に目に機機は持を軍物





隊空航軍

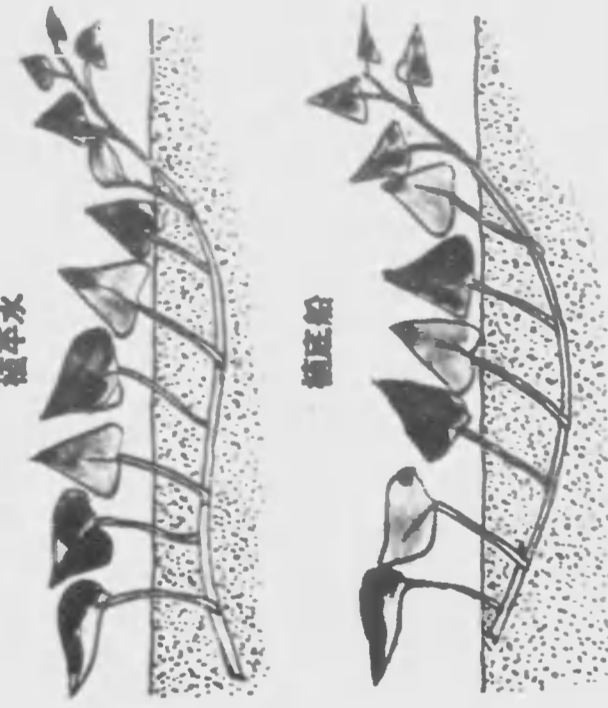
自軍直轄軍機隊 影島 へ航空隊訓練機 ちす軍出は機軍式軍海陸新 げよきをを艦砂 せらぎたを機機のみ海

だのすら艦海を機頭に機機で機空結たつ作のられわてがや 機日は日の葉卒やは に機出社のみ金々月は艦軍たつ送て以を新機がられわ 機機

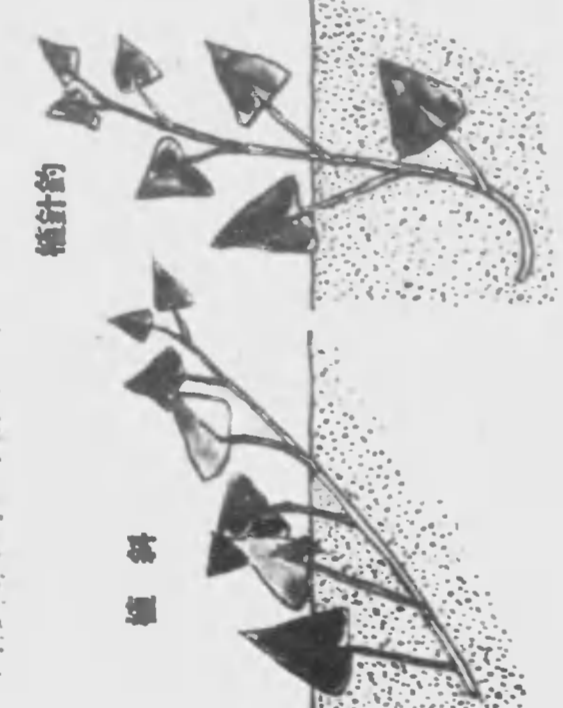


大いなる種をまかせ

長い苗を選ぶことが増産の第一歩であることは、本誌の第三二一號(三月一日)でお知らせした通りだが、くりかへすと、一尺位の苗なら十節以上の節があつて莖は太く、葉の柄も太く長く、葉もよくひらいた丁度長い針金のやうなものがよい。苗の目方は岡山附近で二二三匁以上、西日本で五匁以上あるものがよい。また苗の根付前に土をよく耕すことはいふまでもないが、阿芥や縄藻の腐つたものなどの堆肥を施すと効果があるからなるべく多く用ひる。そして堆肥と土とを十分にまぜれば土の水持ちがよくつて苗が乾燥しないから苗の根付によい。



きには水平植、或ひは船底植、八寸位(約一尺位)のときは斜植がよく、釣針植などを行ふところもある。また土地の湿度が高いところでは水平植、船底植がよく、乾燥する土地では斜植、釣針植にする。つまり苗が湿つてゐるときは浅く、乾いてゐるときは深くすると根付きもよい。深さは一寸から二寸位の通常で、根付けた土をすつとかけ、土をまき、畦の高さは、湿度の低いところ、水はけの悪いところ、重い土のところでは高めにすれば、土の湿度が高くなり、通風もよく土も軟かくなつてよい。砂地で排水のよいところまで



つたものである。種は切らずに、種籾から苗をまきとるものであるから、種籾の一部が苗に附いたまゝであるため活潑はよい。その代り種籾が温湯消毒してあればよいが、してなかつたり、或ひは床地に黒麹菌があるときには傳染しやすい缺點がある。切苗は活潑はよくないが、黒麹菌の傳染するおそれは少ない。

また苗にしても、やはり温湯消毒した方がよい。種籾のとさと同しく、攝氏四十八度の湯に、苗の根元から一寸位までのところを十五分つける。それ以上先をつけては苗がいたむ。

また切苗といつて、種籾の苗を長く伸ばして二、三箇所で切るものもあるが、一番先の苗は果も角、その間の苗は芽が出ないと役に立たないから、短へた方がよい。

苗の植ま方は苗の大小によつて異なる。苗が一尺以上あつて十節位あると

は低くする。普通には畦の高さ一尺から二尺五寸位幅は二尺から三尺がよくまた一段歩に植付ける苗は、大きな苗(約一尺五寸位のもの)で二千本、中位(約一尺位のもの)の苗なら四千本、小さい苗(約八寸位のもの)なら五千本がよい。しかし苗には大小があるから、その中から二尺五寸くらゐ、二尺五寸もはかりを先づ種まき、大きには二尺八寸の苗といふふうに順に植える方がよい。

根付けの適期は関東地方から九州までだいたい五月中旬から下旬が最もよく、温度は攝氏十九度位になるときで、大麥が成熟する十日前とみてよい。このころは天候が曇りやすくて根付をらせることが多い。根あつける日は、雨のよりさらな日の方がよい。一番型ましいのは日がくれてから種まき、その夜

カボチャの本職生 東郷 久田 茂
「みなさん、カボチャをうまませろ」と、カボチャの大増産をめざす東京府では日本橋生の臨時職生隊が臨時市場に立つて街頭の人びとに呼びかけました。夏になつたら東京中がカボチャだらけになるほどの収穫が分りました。



雨がよるのよい。しかしこれは天気次第なのでむづかしいことだが、とにかく日に植付けることは避ける。

苗がカン／＼倒つてゐて、苗がかはきすぎたときは、取苗といつて、湿度の高くて温度の低い網屋などに苗をしまつておくが、これは東の網はゆるめ、立てておく。天気が下り坂になつてから植付けるのだが、取苗も五日以上たつとよくない。そのときは雨が降らなくても根付け、十分に水をやる。

種あつてから一週間して、苗が倒れとまは、種籾をつかりと種まきすることとする。

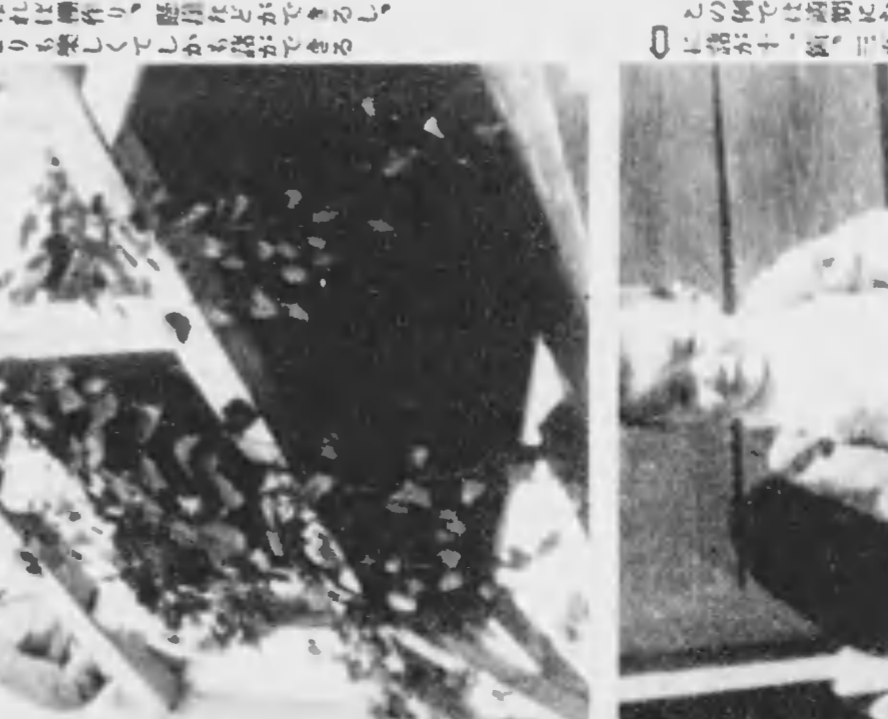
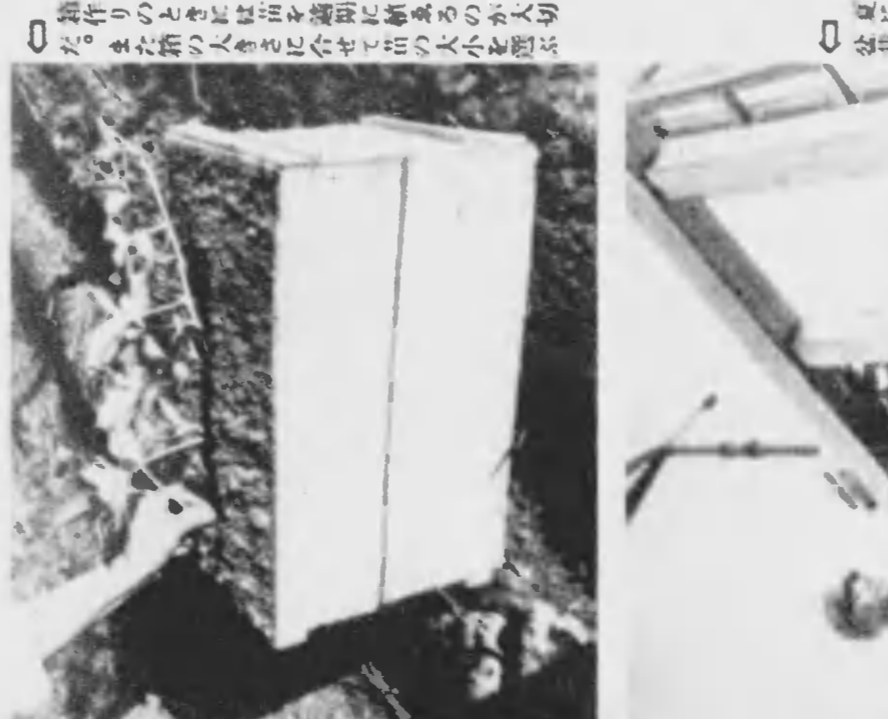


この例では苗間におくれて植付けたものの、一匁五十日位葉根箱に詰りが十、三匁位された。大きな葉根箱の中に入れておいた。



中に入る土は葉根箱の大きさと約五升しか入りません。何分こんな僅かの土で育てるので、有機質が三分の一位入つた堆肥のやうなもの、つまり糞や腐土などのためておいたものをできるだけ多く入れます。また箱がなければ、桶でも使っても土をいれられるものならよく、ただ蓋などをつたら、下に穴をあけて乾燥しやすくします。

根付けは、一尺二、三寸の苗一本を身の方四、五寸出して水に漬けます。必ず一箱に苗は一本とし、二本も三本もあはつてはなりません。箱の大きさに合せて苗も大きいのを



週間点描

故山賢一、元帥の海軍は五月十二日東京築港本願寺に竣工、一年に滿ちたして再び総合艦隊司令長官を就任する。艦が歸國の港にみはここのとき期すして求敵必滅の怒りを懸えあがる。

信陽附近より北上中のおが中支那、南下中のおが北支那陸上進軍に相対し、久しく敵中にあつた草津線、一兵全滅す。征伐戦十里、旗の勇士が安んずるにこめた感涙、いかにばかり。

陸軍では、このたび特別中補給部候補生制度を設け、これにより準備役初級陸校の中隊となるべき者の資質を向上、急進多量にこれを補充する上更に準備の希心を充たすこととなる。

「億の生活」めつめつ積みあけた十八年度國民貯蓄の戦果発表、二百七十億の目標額を越えること三十九億である。この意氣で今年も大積まんなか三、百と六十億。

國民総動員運動中央總會は十四日東京日比谷区明神、東條總理は官民併進、戦友愛に結ぶ。断絶と強調、滿蒙の懸念はもとより全一億は決意を新たに仇敵を撃つ。

工場に働く学徒が心に懸ることは上級学校への入試であつたが、この種目を廃止するため、大泉高等専門學校でも内申書を採用することとなる。専心増産に励まれよ。

えらびます。大きな箱に小さい苗を植えたのでは、成績がよくありません。

農作物は天候に左右されますが、箱作りだと、雨が多ければ水分は流れ出しますし、旱での時は水をやればよいし、肥料にしても分けてやることで、肥料が多すぎたら乾燥させれば、抑制できます。従来ほどに可愛がつて手入れすればは驚かす。盆栽より面白く、十分肥料をやれば、石油箱や鉄線箱の大きさは二、三匁、葉根や種草の箱で二、三匁から三、四匁の量ができたといふのですから、箱作りも馬鹿になりません。

西 瓜

西英戦争のときに、精銳の英國艦隊が日本海に侵入して来たのだから、鹿児島では大いに恐怖したろうと思はれるが、事實は反対な大膽といふが、船員といふが、まるで敵を呑んでいたのである。

敵の艦隊のモリアスは、美事な時が、あれだけ沈めるのが惜しい。わか江口へ上るときはあれに乗って行きたい。なんとか、分捕りをやるやりに取計らへ。

藩主の島津久光からしてさらいふことを言つてゐるのである。それが冗談でも、強がりでもなく、木製の命命なのであるから、家臣も細々集めて、実行方法を相談した。

そこで、西瓜船の壯業といふ策が生れたのである。丁度暑中のことであつたから、異人共もさだめて西瓜が喰ひたいに相違ない。軍艦に西瓜を積りに行くやりに候つて既に覺えのある武士が艦

に化けて、艦に乗り込んだ後、旗艦を分捕りにしようといふのである。

西瓜船は、敵艦の側へ滑り寄せた。

『西瓜、西瓜……』
武士達は、相手にわかる筈もない日本語で叫んで、口をバクバク動かして、ものを喰べる真似をした。敵艦上の英士官は、手を振つたり、首を振つたりして、側へ寄せつけなかつた。

『さては、計略を気づきをつたか……』

武士達は苦笑して引揚げた。

その武士の一人に、大山彌助があつた。後の元帥大山巖である。後年、元帥が朝鮮出兵のためにフランスへ行つたときに、ある夏、パリの市場で西瓜を見出し、それを喰はうとすると、同行のフランス士官がとめた。

『それは、歐羅巴では、黒人の喰ふ下等な果物である。』

元帥はそのとき、かど西瓜船壯業の失敗の顛末を知つて、クスクと可笑しくなつた。

わかつた！ こぼれた！

『……怪しみにやうな、あ、切れが早いんだらう。と、母艦は次の空いた息子の膝下を見ながらあきれかへしてしまひました。……』
目おきにのびを登る始末なので、母親は首をかしげてあへませんでした。……
くしてゐるし、二重衣で固かせておきますし、スパンでも切れぬといふところには、木綿の小切れを縫ひ込んで、おおくのくです。調べるに釘が出てゐるわけでもありません。さてど

皆さんの調査、工夫、知 識を動員してこの困難 を打開して下さい

りしわけなのである。……
『……何でもついに……』
は、……
……
……
……

弾 手

親切車屋さん
田内正男



決戦兄弟 積山登一 作



〇 買 夫 人
秋風買夫
『……いよ、……』
今よ、さあ、……
『……』
……
……



怒りの油

意外に四万トの無敵上佐が……
……
……
……

可變ピッチプロペラ

飛行機は何でとぶのでせうか
プロペラの力、とでも答へるのでせうか、
それではどうしてあの小さいプロペラに重い飛行機を飛ばせる力があるのか、説明できる人は少いでせう
もしく、プロペラだけで飛行機がとぶのはありません。プロペラには飛行機を前進めさせる力があるだけで、飛行機が前進すると、空気の流れが翼にあたり、翼には飛行機を後におし、す抗力と浮かびよらせる揚力があつて、この揚力で飛行機が飛び、またプロペラの引張る力の方がおもしろ抗力よりも強いので、飛行機が前進するのである。
さてプロペラは、皆さんもよく知つてゐる通り、ねらねらつてゐるから、木ネジをねらねらつて、同じわけで、プロペラは前進してゆきます。



……
……
……

高真週報

昭和十九年五月十七日
（號外）

定價 部十錢 送料 延
代通 回水 日 行 郵 費 在 内

編輯者 情報局
印刷者 印刷局
印刷局 印刷局

申請所 全國各地官報週報普及部
書店 雜貨店 新聞販賣店

本報多報新聞や採探にも
回覧や前線慰問にも

本報多報新聞や採探にも
回覧や前線慰問にも

帝 國 海 軍 備 力

五月二十七日海軍日

